

## 事業完了（~~廃止~~等）報告書

### 調査研究期間等

調査研究期間	委託を受けた日 ～ 平成31年3月15日
調査研究事項	<p>《委託研究Ⅲ》</p> <p>【広島市立二葉中学校】</p> <p>ア 広報・相談体制の充実に関すること</p> <p>ウ 教育課程・指導上の工夫に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 外国籍の者への効果的な指導方法等について</li> </ul> <p>カ その他既存の夜間中学における教育機会の提供拡充に関する こと</p> <p>【広島市立観音中学校】</p> <p>ア 広報・相談体制の充実に関すること</p> <p>ウ 教育課程・指導上の工夫に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 外国籍の者への効果的な指導方法等について</li> </ul> <p>カ その他既存の夜間中学における教育機会の提供拡充に関する こと</p>
調査研究のねらい	<p>【広島市立二葉中学校】</p> <p>【広島市立観音中学校】</p> <p>別紙のとおり</p>
調査研究の成果	<p>【広島市立二葉中学校】</p> <p>【広島市立観音中学校】</p> <p>別紙のとおり</p>

## 1 調査研究のねらい

【広島市立二葉中学校】（ア 広報・相談体制の充実に関すること ウ 教育課程・指導上の工夫に関すること カ その他既存の夜間中学における教育機会の提供拡充に関すること）

ホームページ等を利用して、夜間学級の存在を周知し、より多くの人に夜間学級を知ってもらおう。

入学希望者の中には、不登校を経験した人やさまざまな事情を抱えた人がいることから、生徒一人一人の特性に合った学び方を尊重し、受入体制や指導方法等について研究する。

夜間中学に通う外国籍の生徒は、年齢層が広範囲に渡り、学習歴や日本語の習熟度が異なるため、生徒一人一人の学習状況に応じた効果的な指導方法等について研究する。

（課題）

- ・ 日本語の習熟度が低い生徒に適した教科指導
- ・ 学習の習熟度に差がある生徒への教科指導
- ・ 母国語が不十分な生徒への日本語指導及び教科指導
- ・ 日本語学習から教科学習を主とした学習へのスムーズな移行
- ・ 未卒者と既卒者、それぞれに適したカリキュラム等の編制
- ・ 高校進学希望者の学力保障

（その課題を持つこととなった背景）

- ・ 10代から60代までの幅広い年齢層、修学年数の違い、また日本での滞在期間・生活状況などの違いにより、各生徒の日本語習得状況や学習の習熟度に差がある。（参考資料参照）
- ・ 中国語の読み書きが困難な生徒は、中国語の解説書も役に立たず、理解することが難しい。
- ・ これまで外国籍の生徒中心にカリキュラム等を編成してきており、既卒者が入級した場合、変更する必要がある。
- ・ 10代の生徒の多くは高校進学を希望しているため、学力保障、進路保障をする必要がある。

以上のことから、生徒一人一人の学習状況に応じた効果的な指導や教材の在り方について研究を深める必要がある。

## 2 調査研究の成果

【広島市立二葉中学校】

（1）本年度の取組について

上記のねらいを達成するため、本年度は、教員研修と情報収集を柱に次の取り組みを進め、実践に結びつけてきた。

① 教員研修・検討会議

- ・ 4月 第1回研修会

教員全員で研修を行い、本年度の生徒状況を把握するとともに、各学習グループにおける各教科の年間指導計画を立てた。また、評価方法について共通理解を図った。

- ・ 5月 第1回検討会議

限られた教員配置の中で、生徒一人一人のニーズにあった指導方法等について協議した。

- ・ 6月 第2回検討会議  
ホームページへの「夜間学級だより（あゆみ）」の掲載、オープンスクールの周知など、夜間学級の周知方法について検討した。
- ・ 7月 第2回研修会  
個々の生徒の学習状況や習熟度等について情報交換を行い、生徒一人一人の実態を把握し、教科の指導法や教材について検討するとともに、学習指導や学習内容の充実・改善を図る場とした。
- ・ 7月 第3回研修会  
講師を招聘し「日本語指導について」の研修を行った。「学習者の視点を教育へ繋ぐ」と題して講話をいただいた。アクティブラーニングによる学習活動を実際に経験し、授業を進めていく上での大切なことを研修することができた。
- ・ 10月 第4回研修会  
前期の学習状況の確認と生徒状況の把握を行い、後期の取組内容の確認を行った。また、評価方法について再確認した。
- ・ 2月 第5回研修会  
年間カリキュラムや評価、学習指導、生徒指導など、各項目について今年度の成果や課題を出し合い、意見交流を行った。
- ・ 2月 第3回検討会議  
さまざまな事情を抱えた既卒者が入級した場合を中心に、学習グループの編成やカリキュラムなどについて検討した。
- ・ 3月 第6回研修会  
今年度の成果や課題をまとめ、来年度へ向けての準備を行った。

## ② 情報収集

- ・ 5月 「ふれあい教室・北」を視察  
学習や活動などについて聞き取りをするとともに見学をし、不登校生徒への対応についての情報を得た。
- ・ 11月 東京都双葉中学校夜間学級を視察  
既卒者や不登校生徒が多い双葉中学校を視察した。過去に不登校だった日本人生徒への対応の難しさについて、DVDの視聴や先生方から話を聞くことができた。学力だけでなく精神的な支援が必要であること等貴重な情報を得ることができた。また、他校教員との情報交換を通して、補助教材の作成や指導方法についての情報も得ることができた。

## ③ 授業実践

研修や収集した情報を活用して、生徒の実態に応じた教材を作るなど、わかりやすい授業づくりに努めた。また、日本語の理解力や学力差の大きい授業では、チームティーチングを取り入れたりするなどして学習の支援を行った。

外部講師による異文化体験交流学习では、歌やいろいろな楽器演奏の鑑賞などを通して他国の文化に触れ、異文化理解を図るとともに、音楽の楽しさや素晴らしさを実感することができた。また、授業で練習した歌と楽器演奏を発表し、評価していただいたことで自信を持たせることができ、その後の学習への意欲を高めることができた。

また、体験学習・校外学習・野外活動を通して日本の歴史・文化・自然に触れるとともに

に、より実践的な活動を通して、学習意欲の向上に努めた。

#### ④ オープンスクール

- ・ 9月と11月に実施

今年度は2回設定し、昨年度より少し広報の範囲を広げたが、残念ながら参加はなかった。広報については、今後も課題である。

#### (2) 改善充実の成果・課題について

- ・ 教科指導においては、教科担任で各学習グループ・個人に適した教材を作成することにより、生徒の実態にあった指導を行うことができた。より身近な題材を教材として学習内容に取り入れることで、生徒の興味や理解度を高めることができた。
- ・ 日本語学習の段階から小学校程度の教科学習を行うことの抵抗感は少なくなり定着してきたようである。今年度も、社会、理科、数学、英語を週2時間とし、学習内容を深めることができた。今後は、教科グループへよりスムーズに移行させ、中学校レベルの内容に繋がる学習を進めていくためには、授業内容等の工夫が必要である。
- ・ 基礎的な語彙力を効果的につけるため、また、分かりやすい授業展開のためにパワーポイントなどICTを積極的に取り入れ、バリエーションをつけて学習した。ゆっくり、じっくり、繰り返し学習することで基礎学力や語彙力が定着してきた。ICTは今後も積極的に活用していきたい。
- ・ 学習内容や生徒状況について情報交換を行うことにより、教材作り等に役立てることができた。また、共通の指導内容を確認して授業を進めることができた。
- ・ 欠席・遅刻・早退が少なく継続して学習してきた生徒は、進歩の度合いに違いはあるものの成果が現れている。しかし、健康面や仕事、家庭の事情などで出席が安定しない生徒への効果的な学習支援の方法や対応については、引き続きの課題と捉えている。
- ・ 高校進学希望者には、正規の授業だけでは十分な学力保障ができないため、補習授業を行わざるを得ない。
- ・ 日本語の習熟度の差が大きく、教科学習の習熟度の差も大きい。また、日本語学習が必要な外国籍の生徒と日本語学習が不必要な既卒生徒（日本人）とが一緒に学習することになると、これまでのカリキュラムでは十分な対応ができない。それぞれのニーズにあった授業展開をするためには、学習グループ編制が重要になってくるが、限られた教員数と時間数の中で、教科学習における習熟度別授業をどのように実施するのかは、今後も大きな課題である。

<参考資料>

1 本年度、本校夜間学級に籍を有した帰国入国者における状況

① 年齢別・帰入国別人数

年代		10代	20代	30代	40代	50代	60代	計
男性	帰国	0	0	0	0	2	1	3
	入国	1	1	0	0	0	0	2
女性	帰国	0	0	1	0	0	0	1
	入国	2	3	3	2	2	0	12
計		3	4	4	2	4	1	18

② 入級前の最終学歴

	未卒者							既卒者	計
	小4	小5	小6	小卒	中1	中2	中3		
男性	1	1	0	0	0	3	0	1	6
女性	0	0	1	3	4	4	0	1	13
計	1	1	1	3	4	7	0	2	19

## 1 調査研究のねらい

## 【広島市立観音中学校】(学習指導に関すること)

本校には日本人、ネパール人、中国人、フィリピン人が在籍し、年齢層は10代から40代と幅広く、学習歴も様々である。義務教育内容習得が不十分な既卒者も入級している。よって、日本語の習熟度が低い生徒に対する日本語指導及び、義務教育内容の習得が不十分な生徒に対する教科指導が課題であると考えた。

そこで、各国籍の生徒一人一人の状況に応じた効果的な指導や教材のあり方について研究し、生徒の学力向上に資することをねらいとする。

## (課題)

- ・ 日本語の習熟度が低く、また学習速度も遅い生徒に対する効果的な学習指導
- ・ 継続的な登校が困難なため日本語の定着度が低く、初級後半レベルの日本語学習が難しい生徒に適した学習指導
- ・ 日本語学習を主とした学習段階から、教科学習を主とした学習段階への移行
- ・ 義務教育内容の習得が不十分な日本人生徒に対する教科指導

## (その課題を持つこととなった背景等)

- ・ 国籍・年齢も母国での学習歴も来日後の生活環境等も出席状況までも異なるさまざまな生徒が、少人数グループでとはいえ、一斉授業で日本語入門から学習するため、生徒間の日本語の学習速度や習熟・定着度には大きな差がある。
- ・ 数年前から、出席状況や生徒の年齢等により、日本語初級の前半終了時点で既に学習内容定着に差が生じる状況が見られ、既習事項の定着を前提として展開される教科学習の教材の学習内容を理解するのが困難な生徒が多い。
- ・ 中国人生徒の中には、未就学やそれに近い実態のため中国語の読み書きすら困難で、翻訳解説書中国語版が学習理解の補助教材とならない生徒もいる。ネパール人生徒においては、ネパール語版の翻訳解説書はまだ発行されていないため、英語を日本語学習の補助媒介として使える若年生徒と違って、英語どころか母国での学習歴自体がないような中年生徒は、結局わずかな日本語で日本語を学ぶしかないため、日本語の定着は非常に困難である。彼らに対して、多く速く教えることよりも、日本語を確実に定着させるため、絵や実物を活用したり反復練習等を多用したりするなど工夫しているが、理解・定着が困難な生徒もいる。
- ・ 日本語教材だけで行う日本語学習では、日本語力はある程度までで進歩が滞ってしまいがちである。日本の文化・社会・歴史・生活習慣等を幅広く学ぶことによって全体的な日本語力が向上を図れるのだが、生徒の多くの認識はなかなかそこまで達していない。また、日本語能力は初級レベルであり、その日本語と中学校教科書の日本語にはかなりの開きがあるため、日本語による教科学習は自分にはまだ早いと考える生徒も多い。
- ・ 本校は従来より日本人生徒を多く受け入れており、義務教育内容未修了者への教科指導にはそれなりの実績がある。しかし、今年度より既卒者・義務教育内容の習得が不十分な生徒を迎え、さらに「工夫された授業」によって効率よく学習指導し、短期間で成果を上げる方法について調査・研究する必要性が生じた。

以上のような状況の中で、より効果的で生徒の学習意欲を高めるような取り組みについて取り組む必要があり、日本語指導チーム・教科指導チームを中心に効果的な日本語学習自主制作教材の作成及び「行事を通じた日本語指導」について調査研究する。また、昨年度に引き続き、夜間学級における「不登校生徒」への対応について討議し、オープンスクール開催へ向けての調査研究・情報収集もおこなう。

## 2 調査研究の成果

### 【広島市立観音中学校】

#### (1) 本年度の取組について

上記のねらいの達成を目指して、本年度は次のような取り組みを行い、実践に結びつけ成果をあげた。

##### ① 教員研修

\* 添付資料1①～④

年5回程度、校内で担当教員による本年度の授業に関する研修会を開催し、生徒個々の状況を把握するとともに、本年度の学習グループ編成や年間カリキュラム・使用教材・指導方針・方法について意見交換を行い、学習指導に対する意識統一を図る場とした。また、「夜間学級による不登校生徒への援助」に関する研修会を開催し、情報交換・オープンスクール開催等について討議を重ねた。さらに「テキスト・副教材検討委員会」・「テキスト・副教材作成委員会」を経て今年度作成した「自主作成教材」の交流・研究・討議を継続的におこなった。

##### ② 情報収集…先進校視察

平成30年11月26日(木) 東京都葛飾区双葉中学校夜間学級

平成29年度に広島市では夜間学級に養護教諭が配属されることになり、専任の養護教諭が配属された。東京都の夜間学級を視察することにより夜間学級の養護教諭の執務について学ぶことをねらいとして視察に参加した。在籍生徒数37名で、国籍は日本、中国、韓国、フィリピン、ネパール、タイである。10代から70代の生徒がいるが、大半が若年層である。日本語指導と教科指導9教科を学習する通常学級4クラスと、日本語指導と実技教科を学習する日本語学級4クラスの計8クラスで授業が行われていた。出席表によると、約6割の出席率であった。

英語と数学の授業はITでの指導が行われており、参観した英語では、きめ細かな指導で高齢の帰国者生徒達が、熱心に授業を受けていた姿が印象的であった。他の教科は試験直後の授業で、生徒に回答させて先生が説明をされていた。どの生徒も一生懸命に取り組んでいた。日本語学級の日本語指導ではテキストに「大地」が使用されていた。実技の家庭科では、ハーフパンツを生地、糸選びから自ら行い、一人一台のミシンで縫製に取り組んでいた。

夜間学級の4割近くがネパールの若年層の生徒であり、どのクラスも活気のある雰囲気であった。男女比も半々であった。各教室にヘルメットが常備されていた。地震対策の防災用であった。近年災害が頻発する状況になってきているので、防災の面において参考になった。

双葉中学校では自校での調理の給食がある。温かくおいしい給食は、双葉中学校夜間学級の自慢である。外国籍の生徒は魚、和え物、酢の物についての残食が多く、カレーと麻婆豆腐は人気メニューである。栄養面と残食をしない指導が大事である。

養護教諭の先生と交流し、日頃の取り組みについてお話を伺った。双葉中学夜間学級の古川養護教諭は、長年小学校に勤務されていた経験から、小学校での保健指導のレベルが、母国で保健教育を受けていない夜間学級の外国の生徒にはちょうど良く、関心をもってくれるということであった。掲示面に一番力を入れておられているということで、保健指導の掲示が多くあり参考になった。トイレの使い方、手の洗い方などがイラストでわかりやすい掲示がしてあったが、当たり前だからと思う先入観で見過ごしていたことが、日本に来た外国籍の生徒には大事なことであり、あらためて気づくことができた。

2年前から日本人不登校生を受け入れることになったが、夏休み明けから不登校になる、登校後のトイレでの閉じこもり等対応に苦慮しており、カウンセラーが必要と感ずるということである。健康診断は、実施項目は同じである。東京都の夜間学級の中で唯一、双葉中学校は結核検診が実施されていないとのことが、問題であるとのことであった。ネパールの生徒が増えている中、彼らはほとんど保険証を

所持していない。国保に加入する場合、2年にさかのぼって保険料を支払わなければならないことなども加入が進まない一因であるが、学校として国保加入の周知と説得をしていかなければならない。

このたびの先進校視察で夜間学級の養護教諭として、実践的・効果的な取り組み、指導方法を学ぶことができた。これからの本校夜間学級での学校保健の充実に、参考にして、取り組んでいきたい。

### ③ 授業実践

外部講師等による多様な文化体験を通して日本語に触れさせ、学習意欲の向上に努めた。また、日本語初級グループにおいて、研修や各自収集した情報を活用して、生徒実態に応じた学習教材を準備し、分かりやすい授業づくりを調査研究し、成果を出した。

#### <行事を通じた日本語指導>

- ・ 6月 校外体験合同学習〔広島市植物公園〕 \*添付資料2—①
- ・ 7月 異文化交流（ジャズ・コーラス鑑賞）〔観音公民館〕 \*添付資料2—②
- ・ 10月 異文化交流（グランドゴルフ）〔観音公民館〕 \*添付資料2—③
- ・ 12月 音楽を通じた日本語指導（講師：森崎皓） \*添付資料2—④
- ・ 1月 国際理解講座（中国スポーツ文化交流 講師：関羽司龍） \*添付資料2—⑤

#### <効果的な日本語指導自主制作教材>

- ・ 日本語初級Ⅰ（夜ABグループ）
- ・ 日本語初級Ⅱ（夜BCグループ） \*添付資料3

### ④ 不登校生徒受け入れに向けての取り組み \*添付資料4

夜間学級における「不登校生徒」への対応について討議し、オープンスクール開催へ向けての調査研究・情報収集をおこなった。「夜間学級で学んでみませんか?」・「オープンスクール～夜間学級見学会～お知らせ」の2種類の啓発資料を作成し、11月当初より校内に掲示し呼びかけをおこなった。

## (2) 改善充実の成果について

### ① 研修・教材作成

生徒の適正・能力を見定め、総合的な学力を定着させるため、新たな日本語教材を導入した。生徒の非常に前向きな学習態度・努力もあり、短期間で語彙・文法・漢字・読解・聴解の5能力が急速に伸びた。日本語の授業では話す・読む・聞く・書く場面をバランスよく取り入れて、文型も集中して理解させ、基礎的な力を高めてきた。生徒も意欲的に課題プリント等に取り組み、学力向上や日常生活で使える日本語をめざして努力している。会話の練習ではペア学習を取り入れながら、時間をかけることで、生徒が会話の流れを意識したり、場面をイメージしながら聞くことができるようになってきた。読む力をつけるために取り入れたシャドーイングは、生徒にも好評で、毎日継続して練習することで、読む力がつき、発音がきれいになった。声に出して覚え、小テストで復習することを継続したことで基礎的な日本語力がついてきた。毎日のノート点検やアドバイスを記入したことで、「書く」楽しみが身についたようである。

### ② 授業実践・行事を通じた日本語指導

#### <校外体験合同学習>

合同校外学習は例年より早く6月実施であったので、広島市植物公園での植物等見ごろであった。時期、場所は適切であった。今年度は、年度当初から現地での交流方法、内容などを両校の係担当で相談をしながら進め、事前学習でしっかりと取り組み、両校の交流を深めることができた。事前学習でパワーポイントを使って植物に関する学習を行い、興味を持たせることができた。二葉中との交流会では日本語で自己

紹介することができ、友好をはかることができた。

#### <異文化交流・異文化交流>

ジャズとコーラスの鑑賞会では、音楽の授業で習っている唱歌と一緒に歌えたことが印象に残ったようである。公民館と連携し、地域の体協の方々から日本語でレクチャーを受け、楽しく声をかけ合いながらグラウンドゴルフの交流を行うことができた。

#### <音楽を通じた日本語指導>

今年度は日本の唱歌に取り組み、歌詞をしっかりと理解できたことが日本語学習にもつながった。フィリピン・中国・ネパール・日本の曲をそれぞれ紹介し音楽を通して各国の生徒がつながることができた。

国際理解講座…中国人講師を招き、日本語でレクチャーを受け、基本的なルールを学びながらバドミントンを通して友好をはかることができた。実際のプレーも技術を高めることができ、日本語での交流も深めることができた。会話賞・最優秀賞で生徒を表彰することは生徒への励ましになった。

#### ③ 不登校生徒受け入れに向けての取り組み

「学齢期不登校生徒の受け入れ」について論議し、夜間学級のできる支援のあり方を模索した。「夜間学級で学んでみませんか?」「オープンスクール～夜間学級見学会～お知らせ」の2種類の啓発資料を作成し、校内掲示することができた。

### (3) 改善が見られなかった原因

#### ① 研修・教材作成

教材の使用目的についての認識は教員間で完全には統一できておらず、使用頻度においてやや差が出たように思われる。研修や日々のミーティング・引き継ぎで意見交換を行い、認識の統一や教材の改善を図っていく必要がある。仕事の都合上欠席が多いため、基礎知識についてはプリントでの家庭学習が中心となった。知識が定着していないため、理解が曖昧であったり、自分の言葉で表現できないなどの課題が残った。来年度も検討を重ね、これらの課題解決に向け研修を継続していきたい。

#### ② 授業実践

行事を通じた日本語指導については、生徒の出席率をもっと上げられるよう当日のプログラムをさらに充実させ、地域の人との交流を更にはかかっていきたい。

#### ③ 不登校生徒受け入れに向けての取り組み

12月4日から6日までの3日間、教科指導Cグループの授業見学及び行事参加のオープンスクールを計画し予定通り実施したが、昨年度と同じく参加者・見学者共ゼロに終わった。内容の充実・工夫はもとより、「周囲への周知徹底の方策の改善」が何よりも重要である。

今後も様々な制約の中で、義務教育内容の学力をいかに保障していくかが当然の課題となる。「基礎・基本学力定着のための授業作り」・「効果的な自主教材作成」を研究主題とし、年間を通して取り組んでいく。

また、近年生徒数の減少も大きな課題となっている。「『学びの場』を必要としている生徒の掘り起こし」・「魅力のある学級作り」を目指す。